

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 学校法人ゴレスアカデミー

1. 事業名称 沖縄で生活する外国人のための日本語教育実践プログラム

2. 事業の目的 地域在住の外国人と交流を希望する日本人が日本語学習を通して互いの理解を深め、こうしたサークルの定着をめざす。

3. 事業内容の概要 「標準的カリキュラム案」にそった教材を作成し、ボランティア希望者向けに実施する日本語指導者養成講座受講者とともに、沖縄在住の外国人が日常生活で使える日本語の表現を学ぶ講座を30回にわたり開催する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開催日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年7月10日	2時間	学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院1番教室	元山由美子 与那覇麻孔 瀬底あけみ	平成24年度生活者のための日本語教育事業の進め方について	養成講座、日本語講座のシラバスの検討ならびに募集方法について
2	平成24年8月13日	2時間	那覇女性センター一会議室	嘉数晃 宇地原靖 加治屋理華 濱川美雪 元山由美子 瀬底あけみ	平成24年度の日本語教育事業概要の確認と今後の方向性	養成講座、日本語講座の受講生の募集方法ならびに作成した教材の活用方法
3	平成24年10月17日 平成25年	2時間	学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院会議室	嘉数晃 加治屋理華 戸袋勝行 瀬底あけみ	養成講座総括と日本語講座参加状況の報告 平成24年度生活者	養成講座受講生の活用と外国人の日本語学習ニーズの把握 今年度の3事業の活動報告
4	3月15日	2時間	学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院会議室	嘉数晃 加治屋理華 濱川美雪 大仲るみ子 瀬底あけみ	のための日本語教育事業総括	報告。また今回の取り組みを今後どのようにいかすか。

【写真】



2回目の運営委員会

3回目の運営委員会

4回目の運営委員会

5. 日本語教室の設置・運営

(1) 講座名称 生活者のための日本語教室

(2) 目的・目標

沖縄で生活する外国人が日常生活をスムーズに暮らせるように指導する。

(3) 対象者 沖縄県内在住の外国人

(4) 開催時間数(回数) 45時間 (全 30回)

(5) 使用した教材・リソース 独自作成教材 那覇市広報 ウェブサイトの情報

(6) 受講者の総数 31人

(出身・国籍別内訳

中国 8人、インド 6人、パキスタン 4人、韓国 3人、
ペルー3人、ブラジル、アメリカ、シンガポール、フィリピン、
香港、台湾、マレーシア、各1人。

(7) 受講者の募集方法

英語・中国語を併記した募集のチラシを、市役所の窓口、各公民館、外国料理のレストラン、外国語サークル等においてもらった他、養成講座受講生にもそれぞれ近い人に配ってもらった。

(8) 日本語教室の具体的内容

週に2回の授業で毎週1つのテーマを標準的カリキュラム案から選び、テーマに関連した語彙、実際外国人が会える日本語を想定した教材、会話を準備して、養成講座受講者と小グループに分かれて実践的に日本語を学ぶ。

回	開講日時	時間数	参加人数	国籍 (人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成 24 年 10 月 12 日 19 : 30 ~ 21 : 00	1.5 時 間	10 人	中国 (4 人) インド (3 人) マレーシア (1 人) 香港(1 人) フィリピン(1 人)	開講式 自己 紹介	開講式のあと、ボランティアと受講生がほぼ 1 対 1 となり互いに自己紹介する。なまえ、国籍、 住所を言えるようにシートを使って練習した。
2	平成 24 年 10 月 16 日 19 : 30 ~ 21 : 00	1.5 時 間	10 人	中国 (1 人) インド (6 人) マレーシア (1 人) 香港(1 人) フィリピン(1 人)	自分の家族や 国の紹介	ペアになって、互いのことを話し合う。またど んな弁 k 尿がしたいかをきいたり、教材を紹介 したりした。
3	平成 24 年 10 月 19 日 19 : 30 ~ 21 : 00	1.5 時 間	5 人	中国 (1 人) インド (2 人) マレーシア (1 人) フィリ ピン(1 人)	自分の言葉を 紹介する	それぞれの国の言葉をボランティアとペアに なって日本語で説明したり、挨拶を教えたりす る。

回	開講日時	時間数	参加人数	国籍 (人数)	取組のテーマ	授業概要
4	平成 24 年 10 月 23 日 19:30~21:00	1.5 時間	13 人	中国 (3 人) インド (5 人) 香港(1 人) シンガポール(1 人) ペルー(2 人) ブラジル (1 人)	医療機関のさがしかた 受診する	どんなとき、どこの病院へ行けばいいのか、いろいろな資料をもとに、ボランティアと考える。
5	平成 24 年 10 月 26 日 19:30~21:00	1.5 時間	9 人	中国 (2 人) インド (2 人) 香港(1 人) シンガポール(1 人) ペルー(1 人) ブラジル (1 人) 台湾(1 人)	風邪をひいたとき 救急車を呼ぶとき	風邪をひいたときの対処のしかたの国による違いを話し合ったあと、救急車を呼ぶときの会話を練習する。
6	平成 24 年 10 月 30 日 19:30~21:00	1.5 時間	11 人	中国 (2 人) インド (4 人) 香港(1 人) シンガポール(1 人) ペルー(1 人) フィリピン(1 人) 台湾(1 人)	災害 (台風)	台風がどういうものかクイズで考えてから、実際の防災無線の放送内容を読みながら意味を考える。
7	平成 24 年 11 月 2 日 19:30~21:00	1.5 時間	8 人	中国 (3 人) インド (1 人) 香港(1 人) フィリピン(1 人) ペルー(1 人) 台湾(1 人)	災害 (台風)	台風の時に注意してほしいことをまとめた髪を配布し、グループごとに確認したあと、気象台の台風情報の語彙をボランティアが説明する。
8	平成 24 年 11 月 6 日 19:30~21:00	1.5 時間	8 人	中国 (2 人) インド (2 人) 香港(1 人) シンガポール(1 人) ペルー(1 人) 台湾(1 人)	災害 (地震)	仙台国際交流協会作成の外国人向けの防災 DVD で、地震のときの注意を勉強する。那覇市の避難所を地図で確認する。
9	平成 24 年 11 月 9 日 19:30~21:00	1.5 時間	8 人	中国 (3 人) インド (1 人) 香港(1 人) フィリピン(1 人) シンガポール(1 人) 台湾(1 人)	災害 (地震)	停電したときに使えるランプとトイレの作り方を手順を説明する授業の一環として行う。
10	平成 24 年 11 月 13 日 19:30~21:00	1.5 時間	7 人	中国 (2 人) インド (1 人) 香港(1 人) フィリピン(1 人) ペルー(1 人) 台湾(1 人)	おとしもの・わすれもの	おとしものをしたときに説明するために。色や柄の語彙を学ぶ。その後遺失届の出し方と、交番での会話を練習する。
11	平成 24 年 11 月 16 日 19:30~21:00	1.5 時間	11 人	中国 (5 人) インド (1 人) 香港(1 人) フィリピン(1 人) 韓国 (2 人) 台湾(1 人)	交通事故	信号無視や追突など、交通事故に関連する語彙を学び、事故の状況を絵をみて説明する練習をする。
12	平成 24 年 11 月 20 日 19:30~21:00	1.5 時間	9 人	中国 (4 人) インド (1 人) 香港(1 人) フィリピン(1 人) 韓国(1 人) 台湾(1 人)	郵便局 コンビニ 買い物	郵便局やコンビニの便利な機能を紹介しながら、日本語での言い方を学ぶ。また色違いやサイズ違いを頼む会話を練習する。
13	平成 24 年 11 月 27 日 19:30~21:00	1.5 時間	2 人	中国 (1 人) インド (1 人)	大型店舗で探検	ボランティアと一緒に大型店舗の中で、クイズの答えをみつけるタスクに取り組む。

回	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
14	平成 24 年 11 月 30 日 19:30~21:00	1.5 時間	2 人	中国 (1 人) インド (1 人)	大型店舗探検 の感想	前回の教室外活動の感想をボランティアと話し合いながらクイズの答え合わせをしていく。
15	平成 24 年 12 月 4 日 19:30~21:00	1.5 時間	9 人	中国 (1 人) インド (1 人) フィリピン (1 人) 香港(1 人) 韓国 1 人 パキスタン (4 人)	表記の練習	以前からひらがなや漢字を勉強したいという声があったので、それぞれ勉強したいものをもってきて、ボランティアを学ぶ。
16	平成 24 年 12 月 7 日 19:30~21:00	1.5 時間	4 人	中国(1人)フィリピン(1人) シンガポール (1 人) 香港 (1 人)	ゴミの出し方	ゴミの分別の仕方をクイズ形式で考える。
17	平成 24 年 12 月 11 日 19:30~21:00	1.5 時間	3 人	中国 (1 人) インド (1 人) シンガポール(1人)	印鑑登録	市役所で行う手続きの中で、印鑑登録がわかりにくいだらうということで、その意味や登録の仕方、カードの作り方を学ぶ。
18	平成 24 年 12 月 14 日 19:30~21:00	1.5 時間	6 人	中国(2人)フィリピン(1人) インド(1人) 香港(1人) ペルー(1人)	これまでの反省と親睦会	今年最後の講座なので、特技を披露したり、自慢の料理を持ち寄って、親睦をはかりながら、これまでの反省とこれからについて話し合う。
19	平成 25 年 1 月 15 日 19:30~21:00	1.5 時間	2 人	中国(1 人) ペルー(1 人)	レストランをさがす	インターネットでどのように自分が行きたい店をさがすか、実際の画面をみながら考える。また、メニューの言葉の意味を確認する。
20	平成 25 年 1 月 18 日 19:30~21:00	1.5 時間	2 人	香港(1 人) ペルー(1 人)	表記と会話	漢字が学びたいという受講生のために、勉強の仕方や教材について考える。
21	平成 25 年 1 月 22 日 19:30~21:00	1.5 時間	2 人	中国(1 人) ペルー (1 人)	交通機関を利用する	モノレールやバスの割引切符の情報を読んで理解する。
22	平成 25 年 1 月 25 日 19:30~21:00	1.5 時間	2 人	香港(1 人) ペルー (1 人)	飛行機を利用する	飛行機のチケットの取り方や空港の利用の仕方、日本各観光地への行き方などを話し合う。
24	平成 25 年 2 月 1 日 19:30~21:00	1.5 時間	3 人	中国(1人)ペルー(1人)韓国 (1人)	情報誌等でイベント情報を得る	2月のイベント情報のページをみながら、内容について確認する。
25	平成 25 年 2 月 5 日 19:30~21:00	1.5 時間	3 人	中国(1人)ペルー(1人)韓国 (1人)	履歴書の書き方と面接	仕事を探すときにまず必要な履歴書の書き方と、面接の約束を電話でとる会話を練習する。
26	平成 25 年 2 月 8 日 19:30~21:00	1.5 時間	2 人	韓国(1人)ペルー(1人)	職場のマナー	日本の会社で働く上で常識と思われるものを書きだした教材をボランティアと読む。
27	平成 25 年 2 月 12 日 19:30~21:00	1.5 時間	2 人	中国(1人)ペルー(1人)	沖縄について	沖縄の移民の歴史とイチャリバチョーデーに表現される沖縄人の人柄について話し合う。日系 3 世のペルーの学習者が祖父母の話をしてくれた。

回	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
28	平成 25 年 2 月 15 日 19:30~21:00	1.5 時間	2 人	韓国(1 人)ペルー(1 人)	沖縄の伝統行事	1 月から 12 月までの沖縄の年中行事について読みながら、個々の体験を話し合う。
29	平成 25 年 2 月 19 日 19:30~21:00	1.5 時間	4 人	中国(1 人)ペルー(1 人)韓国(1 人)アメリカ(1 人)	私の国	自分の国の料理や観光名所について発表にむけて書く。
30	平成 25 年 2 月 22 日 19:30~21:00	1.5 時間	5 人	中国(1 人)ペルー(1 人)韓国(1 人)アメリカ(1 人)マレーシア(1 人)	閉講式	みんなで持ち寄った自慢料理をたべながら、この半年の養成講座と日本語クラスについて話し合う。

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

第1回 2012年10月12日(金)

参加者 受講生10名 ボランティア16名

内容：開講にあたり、開講式を行う。まず、司会の開式のあいさつのもと、本学校法人理事長仲田から、この講座の経緯と励ましの言葉があった。次に那覇市平和交流男女参画課課長宇治原より、那覇市としても全力で応援する旨の挨拶をもらう。その後、ボランティアと受講生がテーブルを囲んで小グループになり、来年2月までのスケジュールの確認を行う。また、火曜日と金曜日週2回で1つのテーマを設けたこと、そのテーマに沿った会話や言葉を学ぶことを説明する。

特に質問もなかったので、そのまま自己紹介シートを配り、互いのなまえ、出身などについて話し合う。20分ほどしてから、一人一人たって、簡単な自己紹介をしていく。全然話せない人は「無理、無理」といっていたが、まわりのボランティアに助けられて、なんとか自己紹介をした。それから、今日学んだことやこれから勉強したいことを書きこむシートを配ったところ、さっそくボランティアと書き方や文をあれこれ話しあいながら書いていた。9時に終了したあと、日本人ボランティアだけ残って、反省会を行う。レベルがちがう人たちにどんな教材を用意したらいいか、や、絵を描いて説明したりするのに、白紙が各テーブルにあるといい、などのアイデアが出された。

参加者は少なかったが、これから徐々に増えていけばと思う。

第2回 2012年10月16日(火)

参加者 受講生10名 ボランティア13名

内容：1時間前から来る人もいて、ちょうどボランティアも来たので、ペアで話してもらう。

7時ごろから三々五々集まってきて、ちょうど1対1でそれぞれ好きどころに座って、互いの自己紹介や家族の紹介を話題に話の花を咲かせている。ボランティアの方が少し多いので、2組ほど日本人が複数の組ができたが、みな楽しそう。中級を学びたいという人は、中級の本を持ってきて、ボランティアと一緒に読んだり、意味を聞いたりしている。ひらがなやカタカナの覚え方のアドバイスを受けている人もいる。8時すぎたころ、中断して、机を端によせ、中央に学習者の円とボランティアの円を作り、向かい合った同士で自己紹介を始める。数分で学習者が左回りにずれて、また自己紹介。もう一回ずれて自己紹介が終わったところで、さっきと同じペアがないことを確認して、それぞれ机にもどって、後半の勉強をする。あぶれたボランティアと今後の進め方について話し合う。学習者にも自分の国のものを紹介してもらったらどうかという意見が出たので、次回、それぞれ自分の国の言葉を紹介する、

という宿題を学習者に出して解散した。しかし報告シートを書くのにまた話がはずみ、みななかなか腰をあげない。ようやく 15 分過ぎた頃から、帰り支度をはじめて、また金曜日、とあいさつしながら帰って行った。ボランティアのミーティングを毎回する予定であったが、金曜日だけにしよう、ということになった。

第8回 2012年11月6日(火)

参加者 受講生8名 ボランティア3名

内容：最初に仙台国際交流協会が作成した「多言語地震マニュアル」のDVDのやさしい日本語バージョンをみんなでみる。地震のしくみや震度、実際の体験や逃げる時の注意などがわかりやすくまとめられていたが、それでも難しい言葉のところでは一端とめて、内容を確認しながら進む。語彙のプリントも配ったので、それに書き込みながら見ている人もいる。「避難所」の説明がでたところで、那覇市の地図をひろげ、自分の家から一番近い避難所の場所を確認する。また、津波が来た時には何階まで逃げればいいのか、とか、那覇の市内はどのあたりから高くなっているか地形を考えたり、話がはずんだ。その後消防庁が作成した多言語パンフレット「地震に自信を」をペアになって、日本語の部分を読み合わせた。日本語の表現はちょっと難しかったが、中級レベルの人にはちょうどよい教材となった。日本語がまだおぼつかない人は、ひらがなの練習をしていた。

第23回 2013年1月29日(火)

参加者 受講生2名 ボランティア4名

内容：今日から日本へきて2週間という韓国の男性が入った。相変わらず少人数でこじんまりとだが、日本人がそれぞれに2、3人ついて、韓国の男性はあいさつと自己紹介を、ペルーの女性は、那覇市内の公民館で行われているサークル活動について読みながら、わからない漢字を練習する。最後にみんなで自己紹介をしあい、韓国やペルーの話をしてもらいあがった。

【写真】



グループで勉強



二重の輪になって自己紹介



学習者同士も助け合う



ジャスコで商品をチェック

(10) 目標の達成状況・成果

毎回授業の最後に受講生本人と一緒に勉強したボランティアに次回の引き継ぎのためも含めてその日に勉強したことや感想をかいてもらった。書くことがまた勉強になる人もいた。今年度は緊急時や生活上で日本語がわからなくて困ることをなくそう、というのが目標であったので、実際の生活場面で出会う日本語(台風情報や防災無線など)を教材にした。ある程度滞在歴がある人には改めて意味に気づいたり、新しい語彙を増やしたりできて、一定の成果をあげたと思う。

(11) 改善点について

一方で、ほとんどひらがなが読めない人やまだきたばかりの人には難しすぎて、ボランティアが横についてサポートしたが、自分が勉強したいこととは違うとか、内容が理解できないという感想があって、対応に苦慮した。後半からはテーマに縛られず受講生が勉強したいものを臨機応変に取り入れたりしたが、やはりレベルが混在している中で一緒にやっていく難しさを感じた。しかし本来日本語サークルはさまざまなレベルの人が来る場所なので、教材を多くそろえておいて、それぞれが学びたいものを提供する形が一番いいのではないかと思う。学習者のニーズをボランティア指導者が的確にとらえるための勉強会の必要性を感じた。

また 7 時半～9 時という遅い時間帯では参加できないという人もいたので、もっと早い時間帯がいいのではないかとと思われる。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称 ボランティアのための日本語指導者養成講座

(2) 目的・目標

地域に住む外国人が必要としている日本語学習の内容を理解し、指導できる内容を習得する。

(3) 対象者 ボランティアで日本語指導を希望する県内在住者

(4) 開催時間数(回数) 20 時間 (全 13 回)

(5) 使用した教材・リソース 講師作成教材

(6) 受講者の総数 46 人

(出身・国籍別内訳 日本人 46 人 うちペルー出身者 1 人)

(7) 受講者の募集方法

昨年の養成講座受講生にはがきを出して知り合いに紹介を頼む。県内 2 新聞社の週刊タブロイド判情報紙に講座案内を掲載(1 回ずつ) うち 1 社が社会面の記事にとりあげてくれる。

A4 三つ折りの募集チラシをつくり、日本語サークル、公民館等で配布。

(8) 養成・研修の具体的内容

	開講日時	時間数	参加人数	国籍 (人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成 24 年 8 月 17 日 19:00~21:00	2 時間	39 名	日本 (39 名)	日本で生活する外国人が日本語を学ぶということ	外国人に日本人が日本語を教える上でこころがけるべきことについての講演
2	平成 24 年 8 月 21 日 19:30~21:00	1.5 時間	30 名	日本 (30 名)	開講式 異文化理解	自分の意思を伝えられないときどのように感じるのかをトランプゲームを通して考える。
3	平成 24 年 8 月 24 日 19:30~21:00	1.5 時間	26 名	日本 (26 名)	日本や沖縄にいる外国人	日本そして沖縄の外国人の分布やボランティア日本語教室の歴史を知る。
4	平成 24 年 9 月 4 日 19:30~21:00	1.5 時間	26 名	日本 (26 名)	ウチナーヤマトロについて①	沖縄特有の方言と日本語がまざったウチナーヤマトロについて考える。
5	平成 24 年 9 月 7 日 19:30~21:00	1.5 時間	26 名	日本 (26 名)	ウチナーヤマトロについて②	沖縄独特の表現、助詞の使い方等、あらためて日常使っている日本語をとらえなおす。

回	開講日時	時間数	参加人数	国籍 (人数)	取組のテーマ	授業概要
6	平成24年9月11日 19:30~21:00	1.5時間	28名	日本 (28名)	日本語の文法(動詞の活用①)	動詞を3つのグループに分け、受身形や使役形など活用させてみて考える。
7	平成24年9月14日 19:30~21:00	1.5時間	20名	日本 (20名)	日本語の文法(動詞の活用②)	変化(瞬間)動詞と継続動詞 自動詞と他動詞などについて学ぶ。
8	平成24年9月18日 19:30~21:00	1.5時間	21名	日本 (21名)	日本語の文法(形容詞の活用)	い-形容詞とな-形容詞の活用の違いなどを学ぶ。
9	平成24年9月21日 19:30~21:00	1.5時間	23名	日本 (23名)	日本語の文法(敬語・授受表現)	待遇表現(5種類の敬語)と授受を学ぶ際の外国人がとまどう点について学ぶ。
10	平成24年9月25日 19:30~21:00	1.5時間	24名	日本 (24名)	日本語の発音と表記	外国人に難しい発音の指導の仕方、また、ひらがな・カタカナの導入の仕方などを学ぶ。
11	平成24年9月28日 19:30~21:00	1.5時間	23名	日本 (23名)	日本語クラスの実際	地域のボランティア日本語サークルに実際来た外国人についてケーススタディする。
12	平成24年10月2日 19:30~21:00	1.5時間	22名	日本 (22名)	教材作成	日本語サークルに来た外国人のケースに使える教材をみんなで考える。
13	平成24年10月5日 19:30~21:00	1.5時間	20名	日本 (20名)	ボランティアとは	ボランティアの歴史や注意すべき点など、東日本大震災を例に出しながら話をした。

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

第3回 平成24年8月24日(金) 19:30~21:00

出席 26名

内容 最初に前回自己紹介をする時間がなかったので、日本語教室でも使えるアイスブレイクゲームをかねて、小グループにわかれて自己紹介をする。その後今日の本題である日本における外国人数、国籍、外国人が多い都道府県とその理由を考え、沖縄における外国人やその国籍、理由などをグループで討議しながら確認していく。さらに日本の外国人政策の変遷とそれと呼応した形の日本語教育の歴史、またボランティア日本語教室がたどってきた道のりを考える。外国人花嫁斡旋ブローカーの存在や、出産前に離婚して無国籍となってしまう子どもたち、またアメリカンの問題など、これまで聞いたことはあるがあまり意識していなかった問題についてもっと敏感に反応してほしいという講師の提起をみな真剣に受け止めていた。

第5回 平成24年9月7日(金) 19:30~21:00

出席 26名

内容 宿題にしていたウチナーヤマトロを共通語に言い換える問題をみんなで検討していく。だいたい雰囲気はほぐれて、とくに本土出身者がとまどった例が次々だされて、一同の笑いを誘う。また、沖縄でしか使われない表現だということにこれまで気付かなかったという発言に肯く人も多く、和気藹々と進んでいく。続いて特に助詞の使い方に共通語との違いが多いことを例文を出して検討していく。そのような使

われ方をした背景などにもふれながら改めて日常使っている言葉を振り返り、みな良い機会になったと終わった後も雑談に花を咲かせて、名残惜しそうに帰っていった。ようやくクラスとしてのまとまりや、一体感ができて、これからの講座が楽しみという人が増えてきた。

第10回 平成24年9月25日(火) 19:30~21:00

出席 24名

内容 毎回感想に復習が必要、とみな書いていたので、今日はまとめの意味で、動詞の種類の違いや形容詞の種類プリントを最初にする。前のプリントを見返してもなかなか答えが埋まらない。一通り答えあわせをしてから、今日のテーマである「表記・発音」に移る。ひらがな、カタカナの導入上の注意や、間違えやすい理由などを学ぶ。また、「じ・ぢ、ず・づ」のルールなどは初めて聞いたという人もいた。発音では、「ん」の種類や促音・拗音・長音の発音の難しさ、ミニマル・ペアでの練習方法などを学んだ。最後に講師から、けっして文法を完璧に理解しなければ教えられないということではないし、むしろ外国人が疑問に思う点から日本語のおもしろさに気付くことが多く、日本語を深く知ることになればいいと思うという励ましの言葉に、みな肯いていた。



外国人の実情を学ぶ

文法について学ぶ

閉講式の記念撮影

(10) 目標の達成状況・成果

授業の最後に毎回感想を書いてもらった。そのつど難しかったこと、びっくりしたことなどが書かれていて、授業を組み立てる上で大いに役立った。あらためて日常身近に増えている外国人を意識していないことに気づかされ、一緒にできることは何かをみな考えるようになった。一方教える内容については、特に動詞の活用や助詞について自信がないという声が多かったが、養成講座終了後、引き続き行われた生活者のための日本語教室で実践を重ねていくうちに、互いに理解し合う面白さを実感していったようだ。養成講座終了後受講者の3分の2が日本語教室に関わり、日本語教室終了後、那覇市のボランティア日本語サークル「どうしぐわー」に毎回数名顔をだしていることは、大きな成果である。

(11) 改善点について

今回は渋滞を考慮して7時半開始にしたので9時までの1時間半しか時間が取れず、内容を消化し切れるまで十分な授業ができなかった。しかし興味がある人は、その後の日本語教室で日本語学習者と一緒に文法を考えたりしていた。今後も時間をみつけて有志で勉強会をしていけたらいいと思う。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称 日常使う日本語を理解するための教材
- (2) 対象 日本語サークルに来る地域在住の外国人 日本語サークルに来るボランティア日本語指導者
- (3) 目的・目標 実際に日本語クラスで使える教材の作成
- (4) 構成

	コード	プリント番号	タイトル(内容)
1	101100	3B	病院内の表示を理解する
2	301090	3C	インフルエンザと風邪の違い
3	402060	6B	落とし物をしたとき
4	404020	3A	救急車を呼ぶとき
5	404000	6A	事故にあったとき
6	502010	5	地震に関係する言葉
7	502110	4A-1, 2	停電したときの簡易ランプ・トイレ
8	503040	4B	台風の備え・注意
9	801010	10A	ジャスコで探検！
10	802120	10B	レストランで注文する
11	803100	7B	コンビニを利用する
12	1004050	11	割引切符を使う
13	2202080	12	面接・履歴書(2202130)
14	3102010	2	自己紹介をする
15	3301130	9	印鑑登録
16	3401020	8	ゴミの出し方クイズ
17	4501020	7A	郵便局

各ページに 英語・スペイン語・中国語・韓国語・ベトナム語・ネパール語・インドネシア語の翻訳をつけ、まだ日本語の習得が十分でない人が、訳文を見て内容を理解し、教室で何回も読んだり聞いたりすることで、実際の場面で相手の言うことを理解し、対応できるようになる教材になっている。

- (5) 使い方 テーマに合わせてそれぞれの教材(必要な人には訳文も)を読み合わせて意味を理解し話せるように口頭練習したり、関連語彙をしらべたりする。
- (6) 具体的な活用例

たとえば 5 の「事故にあったとき」では、日本人ボランティアとペアになった学習者が自分が運転しているときや歩いているときに事故にあつたらまず何をするのか、どんなことに注意するのか、訳文を見ながら意味を理解し、警察、救急車、保険など連絡すべき場所を覚えることで万が一の対応ができるようになる。

また、15 の「ゴミの出し方クイズ」は、クイズの問題文を理解できるまで日本人と何回も読んだうえで、自分の体験を話したり、周りの人に聞いたりして、答えを考えていく。日本人でも徹底していないものもあるので、日本人ボランティアも頭を悩ませながら、一緒に答えを考えることができる。

- (7) 成果物の添付 ファイルを添付して提出

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

県内に地域日本語サークルを増やすために、サークルを担う日本人メンバーを育てる養成講座を行う。また、「標準的カリキュラム案」にそって教室活動のプランをたて、必要な教材を検討し、実際に日本語教室でその教材を使用して、改善点などを出し合い、よりよい教材にしていく。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

今年度の事業は、養成講座参加者を日本語教室のボランティアとして活用するという点と、また標準的カリキュラム案に沿った教材を日本語教室で使ってみて実用性を検証するという 2 点の新たな取り組みを並行して行うという実験的な取り組みとなった。試行錯誤の連続であったが、養成講座受講生に実践の場を提供できたことは、大きな前進であった。日本語学習者が減少するなかでもボランティアの人たちは最後まで常に数名参加してくれ、学習者を励ましてくれた。今後地域の日本語サークルにも参加の意欲を見せてくれていることは成果といえる。一方教材の作成は、日常出会うであろう場面にローマ字やひらがなをふって、ボランティアが説明することでカバーしようと思ったが、思いのほか理解に時間がかかったので、対訳の必要性を痛感した。整理しなおして教材をしばり 7 言語の翻訳をつけて、実際に使える教材に仕上げることができた。日本語教室は、学習者の帰国や就職で参加者数が伸び悩んだが、毎回の授業はボランティアと互いの知識を日本語で伝え合いながら交流を深めることができた。また、学習者も引き続き日本語サークル「どうしぐわー」で勉強を続けていることも成果の一つだ。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

カリキュラム案の中から、日本に来たばかりの人も出会いそうな場面を 15 選んで、教材を作成していった。テーマにそってすでに多言語で対応しているサイトや子供向けの解説サイトなどをプロジェクターでみんなで見ながら話し合うことが多かった。ただ、学習者のレベルによっては簡単すぎたり、新鮮味がないこともあり、広く皆が使える教材の作成の難しさを感じた。レベル別に分けて教材を準備することが必要だと思う。

カリキュラム案は、日本で生活していれば必然的にぶつかる場面にコードがふられて整理されていることから、その場面に即した教材がインターネットを利用してすぐに手に入るようになることは画期的だと思う。日本語サークルにおいては教材印刷のコストが負担になっており、携帯やタブレット端末、ノートパソコンで、各学習者に最適な教材を選べるようになれば、ボランティアにとっても学習者にとっても学習方法の改善につながる。

そのためにも、全国の教室で作成された教材がアップロードされて、内容の充実が図られることを期待している。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

運営委員会に、沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課や那覇市の平和交流・男女参画課の担当に参加してもらったことは、県内の取り組みにつながる話し合いがもて、次年度にもつながるものとなった。現在県内で日本語学習を必要としている外国人の数が、各自治体においても正確に把握されておらず、特に子供たちを受け入れる学校現場では、個々での対応を余儀なくされている。一方昨年、今年と日本語指導者養成講座を修了した人たちは活躍の場を求めており、双方の橋渡しの仕組みの

必要性が運営委員会でも議題にのぼった。そこで、次年度においては、そうした各自治体の実情を把握し、日本語指導者の活用を呼びかける取り組みを考えており、引き続き県交流推進課や那覇市国際交流担当の協力を得て、実あるものにしていきたい。

(5) 改善点, 今後の課題について

日本語教室の応募者が少なかったのは宣伝が少なかったためと思われる。もっと新聞などの活用を考えるべきだった。また、事前に学習者のニーズを把握する方法の検討も必要である。

学習者が少ないときのボランティアの勉強会のやり方も、実際日本語サークルで起こりうることなので、検討する必要がある。場面に応じた会話は、もっとボランティアと協議して作りたいと思っていたが時間が限られて思うようにできなかった。今後日本語サークル「どうしぐわー」に参加するボランティアと、場面ごとの会話文をもっとたくさん作って充実させていきたい。

(6) その他参考資料

こんにちは！

外国人の皆さんのための、無料の日本語講座がはじまります。

外国から来たみなさんにとって、情報はとても大切です。でもインターネットなどで知ることが出来る情報はほんのすこしです。また必要な情報はたいてい日本語でしか書いてありません。いろいろなことばに翻訳するには、時間がかかります。

そこでみなさんの日本語の勉強をお手伝いするために 10月12日から2月22日まで無料の日本語講座をはじめます。時間は毎週、火曜日と金曜日の午後7時半から9時までです。これまでこの無料講座を受けた人も、ぜんぜん勉強したことがない人も、だれでも参加できます。ご希望の方は、電話かメールでお申しください。

大家好！

专为外国人提供的免费日语讲座开课了。

对于从外国来日本的外国人来说，信息情报是非常重要的。但是网上的信息是有限的，而且基本上都是日语。要翻译成各种外语需要花时间。

作为解决这个问题1个方法，将在10月12日至2月22日期间举办免费日本学习班。每周星期二和星期五晚上7点半至9点上课。

不管以前是否参加过这样的学习班，也不管以前是否学过日语，谁都可以参加。希望大家踊跃报名。请电话或电子邮件联系。

Dear Friends,

We have sent this information to non-Japanese in Okinawa.

We understand that it is necessary for all foreigners to receive information the regardless of their nationalities. However, almost website has limited information in English, and the information what the foreigners just need is usually written only in Japanese. Unfortunately it will take time to translate them into other languages.

Therefore, as an urgent response to this situation, we start a free Japanese Language course from 12th Oct. to 22nd Feb. The time is from 7:30 pm to 9:00 pm every Tuesday and Friday. If you are interested in attending the course, please contact us by phone or email.

We are looking forward to seeing you soon.

免费日语讲座即将开课

we start a free Japanese Language course!

むりょう にほんご

無料日本語クラスがはじまるよ！

2012年10月12日～2013年2月22日

from 12th Oct. 2012 to 22nd Feb. 2013

毎週 火曜日 (星期二)、金曜日 (星期五) Every Tuesday and Friday

午後 7時半～9時 7:30 p.m.-9:00 p.m.

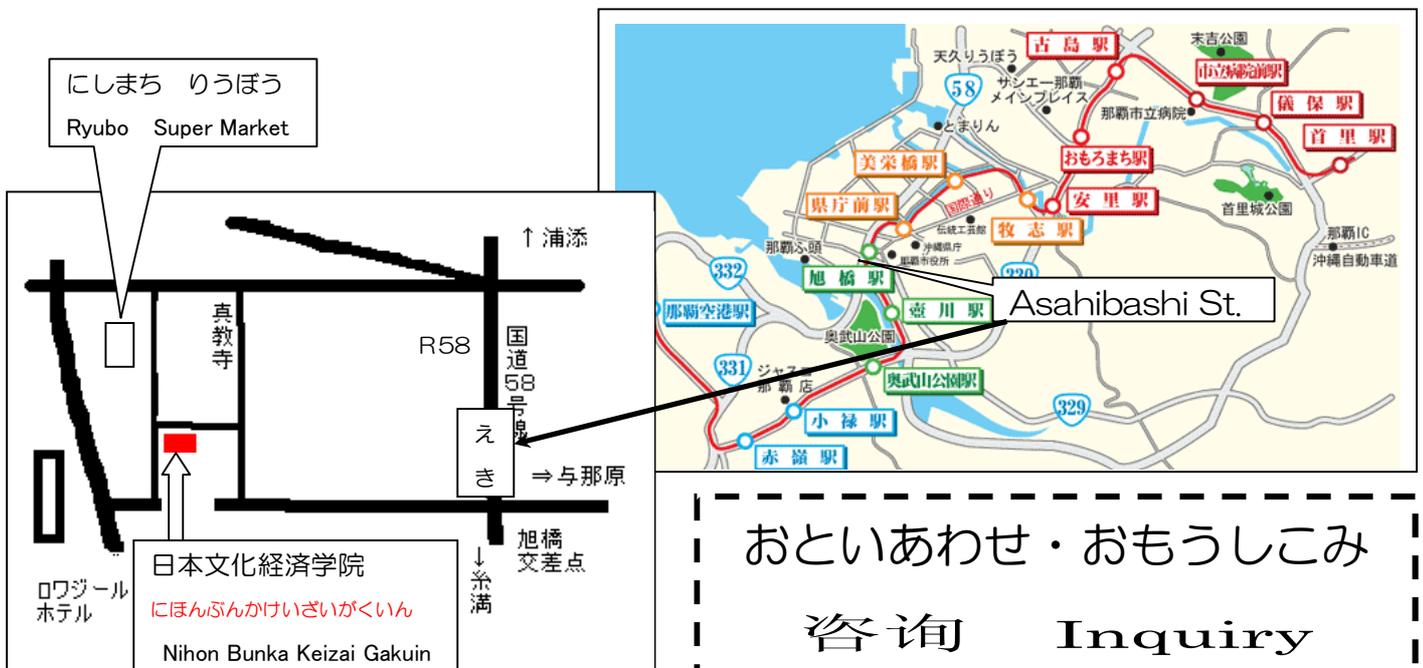
日本文化経済学院

〒900-0036那覇市西2-12-14

Nihon Bunka Keizai Gakuin (JICE) 2-12-14 Nishi Naha, 900-0036

Tel : 098-869-8686 Fax : 098-865-3230

「あさひばしえき」から7分 7min. from Asahibashi-St. 从旭桥站徒步7分钟



お問い合わせ・おもうしこみ

咨询 Inquiry

098-869-8686

gores@jice.ac.jp

にほんぶんかけいざいがくいん

日本文化経済学院

「多文化共生」「草の根国際交流」こんな言葉を聞く事も珍しくなくなってきました。少子高齢化が進み、地域の中でいろんな国の人たちと出会い、ともに協力し合って暮らしていく時代を迎えています。

近くに住んでいる外国人に日本語を教えたい、ボランティア日本語サークルっておもしろそう、日本語ってどうやって教えたらいいの？ そんな方々のために昨年、文化庁の委託をうけ「ボランティアのための日本語指導者養成講座」を行ったところ、大変ご好評をいただき、今年も開催することになりました。日程は8月21日から、8月の最終週を除く毎週火曜日と金曜日の夜7時から9時までで、全12回です。

講座を始めるにあたり、立教大学の田中望先生にご講演いただくことになりました。この講演は **受講するしないに関わらず**どなたでもお聞きになれます。ただ、会場のスペースの関係で申込先着50名様までとさせていただきます。

講演会、講座、どちらのお申込みも下記まで電話または Email でお願いします。多くの方々のご参加をお待ちしております。

お問合せ・お申込み

学校法人ゴレスアカデミー

日本文化経済学院

Tel 098-869-8686

Email gores@jice.ac.jp

スケジュール

月 日	曜日	内 容
8/17 7:00 スタート	金	特別講演 田中望 立教大学教授 「日本で生活する外国人が日本語を学ぶということ」
8/21	火	開講式 言葉が通じないってどんな感じ？
8/24	金	沖縄にはどこの国の人が多いの？ 近くにいる外国人を知る。
9/ 4	火	ウチナーヤマトロってなに？ それって日本語じゃないの？
9/ 7	金	日本語の教科書にはない沖縄独特な言い方を知っておこう！
9/11	火	外国人が早く日本語を使えるようになるための文法の基礎知識
9/14	金	「よみてください」はへん！外国人が間違えやすい落とし穴。
9/18	火	「きれくない」は日本語テストでは×になります。
9/21	金	難しいけど日本で生活する上で、敬語は絶対必要。
9/25	火	「とけい」って「とけえ」って発音しますよね。「ビル」？「ビール」？
9/28	金	どう日本語を教えたらいいの？どこまで教えたらいいの？
10/ 2	火	ボランティアってなんだろう？しんどいときもあるよね。
10/ 5	金	アイデアを出し合って、みんなで教材を作ってみよう。

時間 7:30pm~9:00pm

場所 日本文化経済学院 (那覇市西 2-12-14)

モノレール旭橋駅・那覇バスターミナルから徒歩10分

駐車場はございません。公共交通機関か、近隣の有料駐車場をご利用ください。

講座の内容と 受講にあたっての注意

1. 地域に暮らす外国人と日本人がお互いの文化を理解し合うために文化庁の委託を受けて学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院が実施する講座です。
2. 国語文法とはちがう外国人が学ぶ日本語文法を紹介します。
3. 年齢・性別・国籍・学歴は問いませんが、日常的に日本語を使って生活している人を対象とします。
4. 養成講座終了後、10月12日(金)から翌年2月22日(金)まで(12月18日~1月14日の期間を除く)の祝日以外の火曜日と金曜日に同じ会場で30回の予定で行われる地域在住の外国人のための日本語クラスに10回以上参加していただきます。
5. 国際交流に興味をお持ちの方、ボランティア日本語教室に参加してみたい方、大歓迎です。
6. 受講料は無料ですが、プリント代等として開講式の日には2000円徴収します。
7. 外国語ができなくても大丈夫です。
8. 80%以上講座に出席され、日本語クラスに10回以上参加された方に修了証を発行します。
9. 定員30名に達し次第締め切ります。
10. 台風接近の際は、公共交通機関が止まった時点で休講とします。代替りの講座は調整の上お知らせします。

ボランティアで日本語を教えたい人のための

＜文化庁委託事業＞

日本語指導者養成講座

何かをはじめたいあなたへ！

新しい一歩をふみだそう！

世界がどんどんひろがります。

ボランティア
で日本語を教
えてみたい！

外国人と友
達になりたい！

無料

いろんな国
のことが知
りたい！

海外でボラン
ティアをして
みたい！

会場略図



〒900-0036 那覇市西 2-12-14

日本文化経済学院

☆モノレール旭橋駅・那覇バスターミ
ナルから徒歩10分

☆銀バス 那覇ショッピングセンタ
ー前から徒歩3分

＜文化庁委託事業＞
ボランティア
日本語指導者養成講座

受講生募集

2012年8月21日(火)～
毎週火曜日・金曜日
午後7:30～9:00

開講記念特別講演会

立教大学教授 田中望先生
～日本で生活する外国人が
日本語を学ぶということ～

2012年8月17日(金)
午後7:00～
入場無料

主催
学校法人ゴレスアカデミー
日本文化経済学院

10月12日 氏名

☆ 感想、気づいたこと、ご意見などをお書きください。

日本語をよくわかる生徒が多かったです。

隣のテーブルで、プリントの答えがわからない人がいるときに手伝っていいのかとまどいました。

今日は、とても楽しかったです。

10月23日 氏名

☆ 感想、気づいたこと、ご意見などをお書きください。

テーマや資料が用意されていたので、とてもやりやすかったです。

楽しかったです。前は人が少なかったのでも、これからどうなるかわかりませんが、新入りの生徒も増えて盛り返していきそうです。

10月16日 氏名

☆ 感想、気づいたこと、ご意見などをお書きください。

とても素晴らしい方々にお会いできて本当に嬉しく思っています。

このプロジェクトは本当に正解だと思っています。インドの方達は沖縄に住みたいと思っているので日本語はあきらめずに勉強していきたいと言っています。琉球の人達はフレンドリーで親切だと言っています。困るのはベジタリアンの説明が日本語でできないのと相手方もなかなか理解できないのに苦悩していること。そして病院関係に不安を感じている様でした。

楽しかったです。

10月26日 氏名

☆ 感想、気づいたこと、ご意見などをお書きください。

さんと自己紹介やあいさつ、物の名前などが

会話の練習をしました。今日の風邪の予防の勉強は難しいと思います。どう説明していいかわかりませんでした。

カールマンさんと楽しく勉強しました。

9月11日 氏名

☆ 今日の授業の感想、学んだこと、気づいたこと、ご意見などをお書きください。

半分以上、理解できず言葉のみ
 日本語を使っているが、文法は殆ど分っていない。同じにシチュエーション
 文法を会話で教えるのだからと受けた講座だったが、
 学習年代以上に、夏休みにやらせたい。やっていたら、身が
 引きしまる。

9月18日 氏名

☆ 今日の授業の感想、学んだこと、気づいたこと、ご意見などをお書きください。

文法から入る教科書と、必要最小限から入る教科書
 あり、学習者のニーズに合わせて使い分けられている大切さを
 知ることができた。又、学習者の学習レベルに合わせて、
 どの文法を深めたいかという点も参考になった。
 これらの点から系統立てて整理できていること、かつ、次の
 ステップの例文を出して練習にもつなげる学習者を混同させ
 ないことは自信もポイントに思いました。
 「お茶の入り方」のように文化的背景から来る
 奥行きも日本の美しさ、教えるとはとても素晴らしい... 等(笑)

9月14日 氏名

☆ 今日の授業の感想、学んだこと、気づいたこと、ご意見などをお書きください。

「～ている」はよく使う文の形ですが、5つの用法があると
 思っていなかったです。気づくきっかけになって良かったです。
 日本語教師のボランティアでは、文法よりも正しい表現を
 教えることが多く聞いて安心しました。
 「入る」の「入っている結果の状態」と考えるのはウチナーやまじり
 のような気がしました。まだよく分かりませんが頑張ります。

9月21日 氏名

☆ 今日の授業の感想、学んだこと、気づいたこと、ご意見などをお書きください。

敬語の分類やルールを学びました。
 時々違和感を感じていた「～差し上げ
 ます」に触れて、違和感のわけが
 わかりました。使う方のルールを理解
 して、ちゃんと説明できるようになりました。
 思いました。日常でも大切なことに気づき
 ました。ありがとうございました。

9月25日 氏名 津田

☆ 今日の授業の感想、学んだこと、気づいたこと、ご意見などをお書きください。

復習ありがとうございました。

文字・音声表記。日本語はおもしろいなーと思
います。正確に話すことは意識していかねれば
と思いましたが、国語なので一番究めなければ
いけないのではなから思っています。

10月2日 氏名

☆ 今日の授業の感想、学んだこと、気づいたこと、ご意見などをお書きください。

ボランティアのやり方を学ぶことができて良かった。地域に
とけ込み、誰とでも相談できるネットを作ることが
大切であることがわかった。ボランティアの立場でも、とけ込み
抱えこみ、楽しく学ぶことがお互い大事で
あることがわかった。皆さん、3.3は敬語や挨拶を
お持ちで、今後、何かの機会に生かされるといい。到
日も楽しい講座ありがとうございました。

9月28日 氏名

☆ 今日の授業の感想、学んだこと、気づいたこと、ご意見などをお書きください。

日本語をボランティア教室で教えるということは、文字や発音や会話を
伝えるだけではないということを感じた。日本語を学ぶに
外国人にはそれぞれの背景から、学ぶたいこと、学んだら何が
か、いくとありもある。そのニーズに合ったことから日本語を学ぶ
ことにより、上達も早いだろうし、興味関心も深くなり
本当に役立つ活きた学習になるだろうと思う。